

ぬ破目に落ちた場合もあり、自合の方には  
着されんで工場と俱にすゝ人情として差  
の破目に陥る、そこを単議と未済に防、必  
か生して来るのであります

(第一) 単議の真相捕捉

労働者から不平の要求が起る、又左解雇成  
給退職者等之れも目下、類々の単議を起すか  
多くの場合針ほど、事と棒大にして替き三  
果てハ進んで一般に同持業工をさ、勸誘す  
る労働者もあつた、要するに其本は大し、同題

て無く、何んとか方法と講すれば之を未済に  
防くことは出来得るものであります、仮し防  
けぬまでも其被害その他に及ぼさぬやう出来得  
るものであります、第一の要義は早く労資の  
間に入つて其真相と拉へることが必要あり  
ます

(第二) 事前の了解

事の勃発しない以前にハ要求全部を容れな  
くとも其幾分を容るれば勞働者の感情を融和  
するこゝとが出来得る、然れども尙も事の勃発